

「なんか困っていきそうだな。でも、やっぱり私の考え過ぎじゃないかな。でも、ここで離れたら見捨てたことになっちゃうかな。」

小さい頃、私は、一人でキョロキョロと周りを見ているおばあさんに声をかけようかどうか長い間ずっと悩んでいました。

私は、昔から知らない人だとどうしても緊張してしまい、困っていきそうな様子でも、見ただけで、声をかけることができませんでした。電車でお年寄りの方が立っているのを見てもなんと声をかけたら良いのか迷っているうちに、他の人が先に声をかけてしまうことがほとんどでした。なので、なりたいたい自分になれていないんじゃないかと思いました。

そこで私は、「自分もこんなふうになりたい。」と思える人を探して、お手本にしようと思いました。そのことを考えていると、東京に住んでいるおじいちゃんのことを真っ先に思い浮かびました。おじいちゃんはいつも私の話をニコニコ聞いてくれてアドバイスをくれることもありました。他の大人は忙しかったり、他の大人と話していて、言いたいことがあってもなかなか言い出せないことが多く、おじいちゃんには気さくに、相談しづらいことも相談できて嬉しかったです。私はたまに、人の話をさえぎってしまうことがあるので、おじいちゃんを見習って相手が話すことがなくなるまで、待ってみようと思いました。

次に思い出したのは、塾で最近友だちになった子のことでした。その子は、たくさんの友だちがいる、明るくて元気な子です。廊下をすれちがった時に必ず手をふってくれたり、あいさつをしてくれたりしました。私は友達にしかあいさつはしていなくて、あんまりしゃべっていない人は、相手があいさつしたら小さな声で返す程度です。それがきっかけかどうかはわかりませんが、そこからだんだんと話さなくなっていった子もいました。

結局、クラス替えのときに別々のクラスになり、話す機会もなくなって、会うことはほとんどなくなりました。あの時に、声をかけていたら別々のクラスになっても、それまで通りに話せていたのかなと考えると、あいさつをしておけばよかったなと後悔しました。次にまた、話せる子ができたら、その時は少し不安になっても自分から声をかけたり、手をふってみようと思います。少しだけ勇気を出したら、困っていきそうな人に話しかけられるのではないかと思えてきました。

私は、今まであいさつをされても小さな声でしか返せなかったり、相手が話しかけていても途中で遮ってしまうことがたくさんありました。でも、おじいちゃんや塾の友達みたいに、自信を持ってあいさつを返したり、相手の話はもうないと思えるくらいまで待って、最後まで相手の気持ちを聞いてみたりしたら、周りの人ともっと仲良くなれると思います。

そうしたら、誰かが困っているときに声をかけて助け合うことができると思います。誰もが話をしやすい社会になるために、困っていきそうな人を見かけたら、まずは自分から声をかけられるようになりたいです。